

姫路西ロータリークラブ卓話(職業奉仕フォーラム)

テーマ:「私の職場とコロナとの3年」(約7分)

龍源寺住職 白川 了一 R-5-1-18

コロナが流行した影響について

日々の法務(葬儀、法要、月参り等)が減ったということはありません。
ただ、葬儀の参列者や法事にお参りの人数は少なくなったように思います。
龍源寺の法要も(年に大きな法要が三回ありますが)ほぼ例年通りに勤修いたしました。
文化展やサマースクールは開催しましたが、盆踊りは3年続けて中止になりました。

コロナで気をつけたこと

お参りに行くのはご高齢の方のお宅が多いので、私がコロナの運び屋にならないように、マスクと手指消毒はしっかりとしました。

また、法事の時は換気に気をつけて、1つのお勤めが終わる度に、空気の入換えをお願いしました。

コロナで困ったこと

令和4年2月に孫娘がコロナで陽性になり、私も含め一家全員が濃厚接触者になりました。そのため1週間にわたって法務ができませんでした。(葬儀も2軒含む)

また11月には私自身がコロナに陽性になり同じく法務が滞りました。

早くこの感染症が終息することを念じております。

プラス面

消毒用アルコールがバカ売れ

弊社取り扱いメーカー コニシ株式会社 創業150年 従業員1500人の
ボンドの製造販売で知られているが、消毒用アルコールは知名度なし。

SARS の流行時に手指消毒用のハンドジェルを販売するも、すぐに SARS が
落ち着き大量の不良在庫になり、アルコール事業部は風前の灯の部署とな
っていた。

製造を他社に委託して細々と販売していた。コロナで大量に問い合わせが
来るかと思えば、知名度がないので問い合わせが少なかった。

弊社がアルコールを沢山販売できたのは、知名度がなかったお陰です。

姫路医師会、歯科医師会へ出荷後、姫路医師共同組合様のお手伝いで
姫路市内の多くの病院へアルコールを配送頂きました。

姫路市内の学校関係にも沢山の消毒用アルコールを販売

2020年4月、5月、6月だけで過去10年分の量を販売する事となった。

2年間で500mlポリ瓶だけで約7,000本 18L 缶 約1,500缶出荷

マイナス面

学校のプール中止で消毒剤の出荷がストップ

各メーカーは冬場に製造して夏場に販売するが、今回製造してしまっていたため、倉庫に大量の消毒剤が保管される。

プール復活後はコロナを理由にメーカーから直接学校へ配送しているため、配送の手間が省けた。

コインパーキングの値下げ要望

3ヶ月間通常の5割で契約・6ヶ月間7割で契約

月極駐車場は特に影響なし。

クリーニング関係の薬剤

ホテルのシーツ洗浄の漂白剤の出荷が5割減

病院、養護老人ホーム系のクリーニングは変わりなし。

2名でトラック配送している中、1名が濃厚接触者で休暇

徐々にトラックに乗って配送。

以降、可能な限り配送を減らしている。

2020年3月2日から24日まで新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、全国すべての公立小中高校を休校とする要請が政府から発令された。

休校中は、学年別に時間割を設けお稽古の開催予定をしましたが3月6日に姫路市で初めての感染者が確認された為、3月のお稽古は全日程お休みとしました。

4月に入り、全国にある教室へ除菌液を配布して教室開催の準備をうながしました。

その後

安倍総理大臣が私の46歳の誕生日、2020年4月7日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県に緊急事態宣言を行い、4月16日に対象を全国に拡大。

そして、5月14日に北海道・東京・埼玉・千葉・神奈川・大阪・京都・兵庫の8つの都道府県を除く、39県で緊急事態宣言を解除することを決定しました5月21日には、大阪・京都・兵庫の3府県について、緊急事態宣言を解除することを決定しました。緊急事態宣言は、東京・神奈川・埼玉・千葉・北海道の5都道県で継続。

5月25日には首都圏1都3県と北海道の緊急事態宣言を解除。およそ1か月半ぶりに全国で解除された。

これまでに4回緊急事態宣言が発令され、その都度施設が使用出来なくなり教室をお休みされる場所がありました。

書道展などは、当初は全て中止。大人数であつまり審査や仕分け作業が出来ないと理由でした。

対外の書展も軒並み中止となってましたが、教室の運営はされてましたので、書道

団体主催の書展は開催して、優秀賞の作品を本で発表したりしていた。(結局、ページが増える事により経費はかさむ)

教室及び事務所では、次亜塩素酸空気清浄機を配置して対応して、感染防止対策に努めました。

コロナウイルスが流行し始めた頃はたくさんの方が集まることが出来なくなり、月例の審査やその準備の仕分け作業などを、通常1日で行っていたのを少人数にして2日にかけて行ったり、夏と冬の検定試験では、コロナによりお稽古が出来ない教室への対応で2ヶ月に渡り開催したりと、何事にも普段の倍かかるようになりました。

父の生前より月例審査は事務所に集まって開催していましたが、仕分けした作品を他府県の先生に送り在宅で審査を行なう事を試みたりしました。

これは講師陣の高齢化により、いつか事務所へ集まって審査をする事が出来なくなるので、一度試したかった事なのでチャレンジ出来て良かったところです。

書道はインドアなので、リモートワークになった方は普段より時間に余裕が出来たりするなど、作品の出品数は増えました。

売上の的には本の販売は定期購読が基本ですので減少は少なく済みましたが、例年より手間がかかった事により経費が膨らみました。

また、親御さんが、子供たちと過ごす時間が増えたことにより、子供と同じ課題を毛筆で一緒にチャレンジしてみて、「うちの子供は上手に書きますね。私は書けませんでした。」とお子さんの上達を実感していただくなど、保護者とのコミュニケ

ーションをとる事も出来ました。

現在も、現在も書道教室では、机 1 本に対し児童 1 名（兄弟は 2 名掛け）の着席として対応。

次亜塩素酸空気清浄機をフル稼働させ、感染者が増えたり、学級閉鎖の学校が増えたりすると、お稽古時間を若干も短くするなどをして感染防止に努めています。